

研究科設立20周年に寄せて

愛知工業大学大学院博士後期課程修了
博士（経営情報科学）愛知工業大学 博甲45号
チームラボエンジニアリング（株）
エンジニア

高崎真由美

1. はじめに

経営情報科学研究科設立20周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

この寄稿文の執筆依頼を受けた時、20年前という時期があまりピンと来ず、2005年はどんな年だったのか、調べてみました。2005年はYouTubeが設立され、iPod nanoが発売された年だそうです。これらが無い生活、ちょっと想像できません。20年という時間が、そこで生まれた技術で私たちの生活が大きく変わったのだな、と感じます。

この機会に大学院生として過ごした時間を振り返ってみようと思います。

2. 大学院生時代

私が博士前期課程の学生として経営情報科学研究科に入学したのは2020年4月のことでした。ちょうどコロナ禍に入ったタイミングです。外には出かけられず、バイトも授業も中止になりました。授業がない期間を利用して、画像処理の分厚めな本を一通り読んだことを覚えています（いま画像処理関係の仕事をしているので大いに役に立っています）。なかなか技術書をまるっと読み込む時間って取れないですから。研究に直接関係しないインプットをするには良い期間でした。

その頃、著名な教授がオンラインのイベントに出席すると知って参加したこともありました。「現実とは何か？」をテーマにしたトークイベントで、あらゆるものがオンライン化していく中で興味深い話が聞けました。この頃を境にオンライン参加できるイベントが多くなり、気軽に参加可能になって嬉しかったです。興味のあるものが軒並み東京開催だったので現地参加しようと思うと交通費や宿泊費で結構な金額がかかってしまいますし。コロナ禍がなければ、このような機会は訪れなかったように思います。

授業が中止になるような状況だったので学会発表もオンラインに。発表予定だった学会がワシントンD.C.で開催される予定だったのですが、それも現地開催が中止になりました。オンライン開催自体はされましたが、発表を聞くにはあまり快適とは言えず、聞くよりも論文を読む方にシフトしました。論文をちゃんと読むようになったのもこの頃だと思います。

いま思うと、外には出られなくとも、時間をかけてインプットをすることができ、自分自身の土台を作る上では良い期間だったのだと思います。今思い返すと意外に充実していましたね。

その後、博士後期課程に進みました。少しずつ現地開催が戻ってきて、海外で学会発表する機会にも恵まれました。台湾に2回行ったのですが、学会の会場が観光地ではなかったので、観光

らしいことはしていません。しかし、烏龍茶が本当に美味しくて自分用に買って帰ったほどでした。

また、研究テーマとは少し逸れるのですが、ゲーム開発者向けの技術カンファレンスにも遊びに行きました。個人的にはゲーム開発自体にはあまりモチベーションが高くないのですが、単純な好奇心と研究テーマを変えようと考えていたので取っかかりになればいいな、などと考えていました。結局テーマは変えずに博士号を取ったのですが、最近になって情報収集のノウハウや問題解決のためのアイデアが浮かぶのが早くなったことに気づき、良い訓練になっていたのではないかな、と思います。

3. おわりに

最近AIの進化がすごくて、技術の進歩が明らかに加速したな、と感じます。きっとこの先ずっと加速し続けるのだらうと個人的には感じていますが、非常に楽しみでもあります。

最後になりましたが、経営情報科学研究科の発展と皆様のご活躍をお祈り申し上げます。